春季生活闘争未解決組合支援決議（案）

連合愛媛は、２００５春季生活闘争を、「業種や地域でそのスピード差はあるものの、危機的状況にあったマクロ経済の回復過程の中での取り組みであり、しかもその“回復”は労働者の多大なる犠牲の上に成り立ったものに他ならないこと。よって、これ以上の“労働側のみへのしわ寄せ”を放置するわけにはいかないこと。ゆえに、この状況を好機と捉えて積極的に闘いを構築し、『社会的な分配の歪み』を一刻も早く解消することは、デフレ経済からの確実な脱却が待たれるわが国経済にとっても大きな意味を持つこと」と位置づけて取り組んできた。

状況分析の中で『しわ寄せ』は決して一様ではないという事実。県内においても『業種間』『規模間』『男女間』『雇用形態間』の格差拡大が進行していることを明らかにした。

連合愛媛は『中小春闘』を掲げて今年で３年目となる。今次春闘では『二極化への挑戦』をキーワードに、この現状をしっかり認識することから方針を組み立てた。そして、３年連続で『要求金額』を明示することが、地場中小で働く組合員はもとより愛媛県で働く全労働者に大きな応援メッセージとなることを確信し、ミニマム要求額５，５００円を設定した。

県内先行組合の妥結進捗状況は、全体で（４月８日現在）平均賃上げ方式で加重平均４，５１６円であり、昨年比２７６円のプラスである。地場中小組合においても水準では３，６６１円（100～299 人）と若干低めではあるが昨年比では２３８円のプラスとなっており、昨年に引き続き昨年比プラスを勝ち取っている。これこそまさに、連合『中小春闘』の闘いの成果の表れである。

しかし、一方では今なお解決に至っていない多くの仲間たちがいるのも事実である。定昇制度のない中小・地場組合がその殆どで、まさにこれから本番を迎えることとなり、予断を許さない。

私たちは、この闘いを終わらせてはいけない。前段での成果をバネに、連合愛媛に結集する全組合員と共に断固とした決意で最後まで闘い抜くことを再確認する。そして、未解決組合の経営者に対して猛省を促すとともに、共闘と連帯の輪を一層拡大して、未解決組合の仲間の闘いを一丸となって支援する。

以上、決議する。

２００５年4月２９日
第７６回愛媛中央メーデー大会